

議案外質問(11月29日) さいとう愛子議員

## 「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」は撤回を

さいとう愛子議員は29日の本会議で、市立図書館の縮小・民営化をねらう「なごやアクティブ・ライブラリー構想(案)」をとりあげました。

### 図書館サービスを大幅縮小

「構想(案)」は鶴舞中央図書館を除く20館を5つのブロックに分け、各ブロック内の図書館をA・B・Cの3タイプにわけ、蔵書数や司書配置、利用者へのサービス内容で大きな機能差を設けるというもの。市教委は今夏パブリックコメントを実施しており、10月にも策定する方針でしたが、市民からの批判が高まり、いまだ策定の見通しはたっていません。

### 名東・守山両図書館の「売却」も

さいとう議員は「第一ブロック」(千種、東、名東、守山各区)をとりあげ、千種・名東両区にまたがる地下鉄星ヶ丘駅周辺へのAタイプ図書館設置の動きと、市内で最も古い千種図書館の改築について質問。教育長は「Aタイプ館の設置場所は星ヶ丘駅周辺も選択肢の一つ。千種図書館は建て替えが必要。『構想』策定後に検討する」と答えました。

その上で、さいとう議員は「星ヶ丘駅周辺に新設し、千種図書館を改築した場合、(現在設置されている)名東・守山両図書館はどうなるのか」と質問。

これに対し教育長は「利用状況や有識者の意見を聞きながら検討する。再構築で『余剰』が生じた場合には、売却などによる有効活用を図る」などと答弁しました。

さいとう議員は「売却は断じて認められない」と厳しく批判。名東図書館の利用状況を問うと、同館の図書貸出冊数は20館中2番目に多いことが明らかに。

### 今ある図書館の整備こそ必要

さいとう議員は「新館設置よりも(老朽化が著しい)名東・守山両図書館の整備こそ必要。市民支持のない『構想(案)』は撤回し、図書館の将来は地元の意見・要望を踏まえて検討すべきだ」と強く求めました。



## 「主菜が冷たい」 生徒から不満の声

さいとう議員は中学校スクールランチ制度の改善も求めました。同制度は給食実施を求める世論と運動を背景に、1996年からの試行を経て現在全校で導入。家庭弁当の持参も認められており、同制度の喫食率は市教委目標60%を下回る50%台にとどまっています。

### 肉や魚は10℃以下に冷却して搬送



ある日のランチボックス

さいとう議員は、「おいしくないから(お母さんの)お弁当に早くして」「ラーメンのときは(温かいので)食べる」など、生徒たちの不満の声を紹介。

「民間調理場方式のため衛生上、肉や魚の主菜が10℃以下に冷やされて学校に届く。栄養バランスのとれたスクールランチは重要だが、おいしくないからと残してしまうようでは、十分栄養を取ることはできない。保温食缶に入れるなど、(国基準の)65℃以上に温めて届られないか」と提案しました。

## 中学校スクールランチの抜本改善を提案

教育長は答弁で、カレーや丼ものの具は学校で温め直していると述べたうえで、「温かい献立を提供できるよう努めているが、安全で栄養バランスのとれた献立の提供が重要」と述べました。

### 他都市で導入広がる

### 「自校」「親子」調理場方式

札幌市と北九州市の大半の中学校では、小学校の調理場を活用した「親子調理場方式」を導入し、温かい給食が提供されています。これまで業者委託弁当だった大阪市も、2020年度までに「学校調理方式」(自校および親子調理の併用)に移行する予定です。

さいとう議員は「生徒や保護者、学校関係者の意見を聞きながら、自校・親子調理場方式の導入など検討を始める時ではないか」と要望しました。



ランチルームでの昼食風景